

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1272100502
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ
事業所名	グループホーム津田沼
所在地	〒275-0017 千葉県習志野市藤崎4-10-8 (電話) 047-472-5250

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成19年12月11日
評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	18 人
常勤	5人
非常勤	7人
常勤換算	5.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺
	2階建ての 2階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 ~ 60,000円	その他	食45,000+水光熱20,000+管理20,000+実費	
敷金	有(315,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(105,000円)	有りの場合償却の有無	有(期間:24ヶ月)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央総合病院 戸張クリニック 医療法人郁栄会
---------	---------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中にあり、1階部分にデイサービス、居宅介護、訪問介護等の事業所が併設されている。2階に2ユニットが左右対称に配置されており、とても広く感じられ、清潔感がある。庭には季節感のある装飾が施され、家庭菜園を設けている。車椅子でも散策が楽しめるように工夫がされている。何よりも印象に残ることは、入居者一人ひとりが、穏やかでとても良い顔をされており、自然体で暮らされていることである。職員との関係が良好でありケアの質の良さをうかがわせる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	定期健康診断を、全ての入居者が受けているわけではなかったが、ご家族とも話し合い、年1回は全員が健康診断を受けることにした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員全員に配布し、外部評価を周知しているが、作成に直接関わっていない。今後は職員全員で意見を出し合い、自己評価を行うことが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回民生委員、老人会、相談員、地域包括支援センター、家族会代表などで開催している。入居者の状況、行事報告、情報交換がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情箱を玄関に設けてあり、運営に反映されるようにしてあるが、今のところ、投書は寄せられていない。家族の面会時に入居者の報告をし、相談に乗る機会がいつでも取れる体制を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市の介護サービス向上連絡会に参加し、情報交換、交流を行っている。また地域の方の協力も得られている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は重要事項説明書に記載されているが、グループホームの理念がパンフレットや利用案内に記載されておらず、地域での浸透も不十分と思われる。		ホームの理念を説明文書やパンフレット等に明示し、地域に理解されることが必要と思われる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「お元気で明るく楽しくすごしましょう」というホームの理念を、管理者、職員は共有し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校、公民館、市の音楽会や自治会サロンなど、行事や活動に参加する機会は増えている。運営推進会議の場で民生委員から多くの情報が寄せられるようになった。今まさに少しずつ、地域の一員となっている途上である。		ホームが地域に溶け込み、地域の一員となるために、時間をかけて、少しずつ交流を深めていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義は承知しているが、自己評価の作成にあたり、職員はあまり参加していない。		外部評価へ職員の参加を促し、更なる質の向上に努めてほしい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進協議会で話し合われたことを議事録に残して、参加者の感想も記しており、それをサービス向上に活かしている。2ヶ月に一度運営推進協議会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス従事者が集まる、市主催の介護サービス向上連絡会に参加し、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者個々の健康だよりを作成し、家族に送付している。2ヶ月に1回、広報誌「あじさい便り」でホーム内の活動や出来事を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、入居者・家族はいつでも意見を投稿できる。面会に来た家族に職員がきさくに話しかけ、気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等によりやむを得ず職員の入替わりがあるときは、ベテラン職員が新人職員につき、入居者に混乱が起きないように指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は採用時1ヶ月、内部研修は年8回、外部研修は年4回の研修計画があり、職員は力量に応じて必要な研修を受けることができる。研修出席後はレポートの提出が義務付けられ、ミーティング等で発表も行う。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス連絡会などで意見の交換、交流する機会を設け、また、近隣の福祉施設等を見学させてもらい質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>1日～半日の体験入居をしてもらうとともに、職員が家族や入居希望者本人から丁寧に話を聞いている。新規入居の方がホームにすんなり馴染めるよう、対応を個々に工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の年齢層が若いこともあり、入居者からさまざまな助言をいただいたりして、共に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者本人の希望や意向は、表情や言葉、時には筆談でくみとり、職員全員で情報共有して、統一した対応ができるよう心掛けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人、家族、職員、主治医等の意見を取り入れ、介護計画が作られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度は計画の見直しを行っている。見直し期間前でも状況の変化があれば即時対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人で、デイサービスや介護タクシー等も運営しており、そちらのサービスを利用することができる。とくに介護タクシーは通院や帰省の際などによく利用されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれが昔からのかかりつけ医を持っているので、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら本人、ご家族が納得のいくような支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から入居者本人、家族、かかりつけ医との相談を繰り返し、職員全員で方針が共有できるように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切にして、プライドを傷つけないような言葉かけや対応が介護の基本と認識している。個人情報の管理は、定められた場所で厳重に行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の仕事の都合で急がせたり、待たせたりせず、入居者本位に、できるだけ希望に沿った支援をするよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事が楽しいものになるように心掛け、入居者と同じ献立を共に頂きながら、さりげないサポートをしている。入居者が好みの食品を取り寄せることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、大まかな時間帯や曜日は決めているが、入る順番を臨機応変に変えたりして、入居者の希望に沿った支援を行っている。大浴場や個別の浴場など、好みに応じて選んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、入居者が何かの役割を担えるような場面作りに努めている。畑仕事、掃除、ゴミ集め、調理や食器洗いなど、張り合いや自信に繋がるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、近所の行事など、出来るだけ外出して、外の空気に触れるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで日中は開放している。居室に鍵はない。職員の見守りを密にすることで、入居者の自由な暮らしを実現している。近隣住民からの協力も得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各居室の入り口に誘導方法が表示されている。防火訓練は年2回実施し、職員はマニュアルや、緊急連絡網、役割分担を把握して、消防の指導を受けながら、入居者が安全に避難できるよう学習や訓練を重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平日の昼・夕は併設のデイサービスから食事が運ばれてくる。平日の朝食と土曜日、日曜日はグループホームで手作りの食事が提供される。摂取量はチェック表で管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やわらかい光が差し込んで清潔である。見た目にも季節感が感じられるような花が生けられていて、不快な臭いや音はない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はトイレ付きと無しがあり、入居者の好みや状態に応じた持込みや装飾がなされている。使い慣れた品を置き、安心して過ごせるように工夫されている。		